

開催日時：令和7年2月26日 午後2時から

出席者：別紙のとおり

1 開会

（事務局：鈴木）

定刻となりましたので、令和6年度第4回八千代市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定・推進協議会を開催させていただきます。本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。進行役を務めさせていただきます、福祉総合相談課の鈴木と申します。本日は山下会長が所要のため欠席のご連絡をいただいておりますので、八千代市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定・推進協議会設置要領第4条第3項の規定により「副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する」と定めていることから福田副会長に代理をお願いいたします。本協議会は、「八千代市審議会等の会議の公開に関する要領」の規定にもとづき、会議を公開するとともに、会議録作成のため、会議の状況を録音させていただきます。なお、傍聴希望の方はいらっしゃいませんでした。

本日ご欠席の委員のご報告をさせていただきます。石神委員、五箇委員より、欠席の連絡を頂戴しております。続きまして、配布資料の確認をさせていただきます。資料に不足等があれば申し出いただければと思います。

本日の協議内容について、最初に事務局から第3回協議会後の進捗状況等に報告をさせていただいた後、委員の皆様には事務局が提示した原案について、ご意見を頂戴できればと思っております。それでは、これより議事に入らせていただきます。福田副会長、よろしくお願いいたします。

2 議題

・第2次八千代市地域福祉計画・八千代市地域福祉活動計画（原案）について

（福田副会長）

こんにちは。よろしくお願いいたします。今日も皆様にご意見いただきながら進めさせていただきます。まず報告ということで事務局から計画策定の進捗状況について、ポイント、報告をお願いいたします。

（事務局：鈴木）

「第3回八千代市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定・推進協議会」以降に行った各課とのヒアリングやパブリックコメントの意見を踏まえて、計画書の最終案を取りまとめさせていただきました。委員の皆さまには事前にメールにて送付させていただきましたが、最終の計画案についてご確認いただきたいと思います。それでは、主な修正点について、ご説明させていただきます。

まず、第3回計画策定推進協議会において、ご意見を踏まえて修正し、計画書11ページから「第2章 地域福祉を取り巻く状況」について、各種のデータを現時点で把握できる最新のものに更新いたしました。例えば、17ページにある在住外国人の状況などを最新のデータに更新しております。

また、29ページには、小中学生を対象に行ったアンケート結果を追記いたしました。次に、37ページから「第3章 八千代市地域福祉計画・八千代市地域福祉活動計画」の取組に関連して、コラム

を追記することにいたしました。例えば、43ページをご覧ください。母子保健課の取組として「コンセプションケアの推進」がありますが、言葉がわかりにくいことから、コラムとして追記することにいたしました。また、51ページには、（施策5）生活の行動手段の工夫と体制整備に関連して「地域公共交通計画」や市で行っている「移動支援サービス」の内容をコラムとして追記いたしました。そのほかにも、防災・防犯情報に関するコラムや60ページには社会福祉協議会が担当して行っている、地域の助け合い活動の「ゆいのわ八千代」のコラムなどを新たに追記しております。

また、ユニバーサルデザインやワークショップ、WEBといったような言葉には、※印で注釈を追記いたしました。そのほか、パブリックコメントでもご意見をいただきましたが、アウトリーチ活動といった言葉に「訪問活動」とカッコ書きで追記したり、ICTは情報通信技術といった言葉を補足いたしました。

資料編については、計画内容に関連した「市の取組、事業一覧」を現時点での内容を掲載することにいたしました。これは、毎年、関係する各課と進捗管理を行い、随時更新していくものになります。2つ目に、庁内ヒアリングなどを踏まえた修正を行っています。資料編の「市の取組、事業一覧」の内容確認などとともに、誤字脱字や、計画書の表記、言い回しの統一、計画書のレイアウトなどを修正いたしました。

次に、パブリックコメントの意見を踏まえて、修正を行っています。別紙の「第2次八千代市地域福祉計画・八千代市地域福祉活動計画（素案）に寄せられたご意見と市の考え方」をご覧ください。パブリックコメントのご意見は3人の方から25件ご意見をいただきました。いただいた意見の主旨を損ねない程度に整理して、それぞれのご意見に対して市の考え方を記載しております。この協議会での意見を経て3月に公表を考えています。パブリックコメントの意見を踏まえて修正した箇所としては、資料5ページ、計画期間の図に関して、第2次計画としてバージョンアップを行った内容を赤字や下線等を引くなど記載できないかとのご意見をいただきました。このご意見に対しては、地域福祉計画（市）と地域福祉活動計画（社協）の第2次計画の文字にアンダーラインを入れて強調することにいたしました。

次に、32ページに関して、（1）第1次計画の取組成果の基本目標1の上から3つ目の○について、「八千代市ボランティア・市民活動センター」の所在地と、いつから活動を開始したのか記載できないでしょうか。とのご意見をいただきました。このご意見に対しては、令和5年4月から福祉センター内に新たに整備したものとして記述を追記したほか、18ページの「2 地域活動の状況」の（3）ボランティア・市民活動の記述にも「八千代市ボランティア・市民活動センター」の開始時期や所在地について追記しました。続いて、「アウトリーチ」の言葉の意味を資料編に記載できないでしょうか。とのご意見に対しては、69ページに何か所かアウトリーチとの言葉がでてきますが、取組の方向性の文章中に「アウトリーチ（訪問活動）」と追記いたしました。そのほかにも、わかりにくい言葉には、カッコ書きで用語を追記しています。

以上、計画案の主な修正点になります。また、市長あいさつ文と社会福祉協議会会長のあいさつ文も加えた最終の計画案になります。以上です。植田さんから補足説明をお願いします。

（社協：植田）

99ページからの「第7章 地区別計画」をご覧ください。ここでは、21の社協エリアごとに行った『わがまち元気プロジェクト』の懇談会の様子の写真や地区の特徴、変わってきたこと、地区の課題などを踏まえて、これから自分たちができることとして計画して、市の地域福祉計画とも関連する主

な施策についても記載しております。また、新たに、支会ごとに出された意見をもとにして地区アイコンを作成することにしました。119ページをご覧ください。このアイコンは慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科の学生にご協力をいただき、地域懇談会で出された意見やキーワードを支会ごとに、A1に読み込ませてイメージアイコンとして作成したものになります。例えば自然が豊かな地区は植物がモチーフになっていたり、緑が丘だとバラの花などがイメージされています。前のホワイトボードに掲示をさせていただきましたので、どのような意見があつてこのアイコンになったのかを確認いただければと思います。また、社協支会のアイコンの説明文ですが、慶應義塾大学大学院デザイン研究科のプロジェクトの名前を追記し修正いたします。ちなみにミットジャーニーというA1を活用して、このアイコンを作成したそうです。以上です。

（福田副会長）

ありがとうございました。計画原案やパブリックコメントに寄せられた意見の概要と市の考え方などについて各委員からご協議をお願いします。パブリックコメントも済みであり、大幅な修正はできないと思いますが、みなさんいかがでしょうか。原案に対する感想でも構いません。

（渡部委員）

色々な資料を作るのも大変だったろうと思います。これも大事なことです。私は長寿会なので高齢者の話をさせていただきます。地区別計画に「わがまち元気プロジェクト」からの地区の課題など書いてありますが、実際どうするのでしょうか。例えば、高齢化や認知症の方が増加している。バス代が値上がりして困っている。独居の方が増えている。それは本当にそう思います。また、八千代市は特殊詐欺が多いです。徘徊者も毎日いると聞いています。私どもの会としては、千葉県で3年間連続して会員数が増えているのは八千代市長寿会連合会だけです。ありがたいことです。昨日も全国老人クラブ連合会の事務局長が来て懇談しましたが、全国的に高齢者の集いである長寿会が減っている中で、八千代市の会員数は何でそんなに増えているのかと話をしました。私どもは高齢者に寄り添った活動、社協支会にも協力いただいてやっています。しかし、これからどうやっていくのかと思いました。資料は立派なものでしたが、これをどうやっていくのか心配しています。

（保坂委員）

先ほど社協さんの方から、各社協支会のアイコンをA1が作ってくれたという話を伺いました。この先、各支会や学校が使ったりすることは大丈夫な話なのでしょうか。

（社協：新井課長）

慶應義塾大学の方にも話をさせていただきました。他の地区でもアイコンを使っていきたいという団体もあるみたいです。ぜひお使いいただければと承諾をいただいております。今後、「わがまち元気プロジェクト」は、毎年、各支会の地域ごとに実施していく予定です。その時のご意見によって生成A1を使うと、アイコンの内容が変わってくるので、それも変化として見ていければと考えております。

（吉野委員）

計画は、随分練られて量が多いかなと思うくらいです。やっぱり、記載すべきことを記載すると

これぐらいのボリュームになるのだろーと思ひました。それから活動計画も具体的に実行していくのは、支会単位になってきたりすると思うので、そのことが記載されたのはとてもいいことだと思ひます。活動した結果を評価して、次の計画につなげていくのだろーと思ひます。その間に法も変わってくるとは思ひますが、その評価をしたり、進捗状況を点検検査していくPDCAサイクルは回していかないとはいけません。これ以後の計画について、評価委員会であるとか、点検する委員会であるとか、メンバーが決まっているのでしょうか。

それと、どれぐらいの期間をもって進捗状況の進展、訂正点という課題は必ず出てきて、法が変われば変わってくることもあると思ひます。計画は作って終わりではないと思ひます。これが始まりなので、今日は、これからの点検の方法をお示しいただけるのかなと思ひて参加させていただきました。どういふにこれから以後のPDCAサイクルをまわしていくのか。そのメンバーはどういふ構成になるのかをお聞かせいただけるとありがたいです。

（福田副会長）

ご質問ありがとうございます。この件について、私もその評価の方法とか、例えばアンケートで評価するとか、そういう根拠を持って評価するのか。前にも協議会の中で話が出たことですが、その点について事務局から説明をお願いします。

（事務局：春田課長）

計画の進捗管理と評価方法につきましては、95ページに記載しております。毎年度、関係部署に対して各課の事業、取り組み状況とかを把握して、それを毎年度整理していく形を考えております。

毎年度の進捗状況は福祉総合相談課で整理して、中間評価や最終評価に生かしていくことを考えております。アンケート調査は、次期計画策定の際の市民アンケートで行うことを考えております。

（福田副会長）

どのような工程で、その評価を進めていく形ですか。

（事務局：春田課長）

評価方法は96ページに記述がありまして、毎年度、各課の事業を見直ししながら、実施状況を確認していきます。3年目の令和9年度に中間評価をして、取り組みの改善、評価をします。そして令和11年目が5年目の最終評価になりまして、市民アンケート調査を踏まえた成果指標を確認して、最終評価をする形で考えております。その評価結果を次期計画の取り組みの改善につなげていければなと考えております。

（福田副会長）

評価委員は、どのような体制をお考えですか。もし決まっているのであれば教えてください。

（事務局：春田課長）

評価委員は、この協議会の委員の皆様で評価していただく形になります。

（吉野委員）

毎年の評価は、担当課ごとにやるということ。それから、評価委員会の構成メンバーは、この策定委員会が行うということですか。令和12年度に最終結果を次の計画に生かすということでしょうか。もし、中間評価で現状と全く合わなかったときの途中変更は、どういうふうにしていくのでしょうか。高齢化率をもっと高くなってくだろうし、そこの変更は、この評価委員会でやるのですか。また、毎年の評価は対面でやるのですか、それとも文書でやるのですか。どうやっていくのか、ちょっと今の説明だけではわかりませんでした。

（事務局：鈴木）

毎年の進捗は担当課でやらせていただき、来年度は協議会の開催は1回を予定しています。対面でやる予定です。その時には、来年度の各課の調査した結果をこの協議会でお伝えしたいと考えています。各課の評価は文書で回答していただいたり、ヒアリングが必要な部門については対面でヒアリングをすることもあると考えています。

（吉野委員）

ご説明はわかりました。けれど、変わったときにどうするのでしょうか。高齢化がもっと進んできたり、移動支援が目標に達せない場合はどうするのでしょうか。達しない場合の対応策っていうのは、どこで変更をかけていくのでしょうか。計画の見直し変更もしくは活動計画の活動そのものの変更とか、進捗状況であるとかによって、活動そのものをどう取り組んでいくとかとかという変更点を、どういうふうに毎年の評価から誰が導き出していくのかと思いました。

（福田副会長）

こういった計画は、例えば今回5年計画になっているので、その期間に毎年度評価を重ねながら、次期計画で見直す点をピックアップしていくと思います。計画については5年間、原則は変更しない。そのあと6年目以降の計画見直しのタイミングで、そこでストックされた情報を盛り込んで、新たな計画を作っていくという認識でよろしいですか。

（事務局：春田課長）

はいそうです。

（吉野委員）

例えば、50%にも達しなくても50%に達しないまま5年間行ってしまうのか。

（福田副会長）

目標値の見直しということでしょうか。

（事務局：鈴木）

基本的には計画はこのままという形です。各課の取り組みについての評価を毎年やっていくことを考えています。そのため、計画書の変更点は、次期計画の第3次計画の方に反映させていくと考えています。

（吉野委員）

達しない部分は達しないままで5年間行ってしまうのでしょうか。達しない部分をどうしたら達成できるかっていうのを、行動計画の見直しというものをしないのでしょうか。例えば100点満点のうちの50点しか取れなくても、その50点マイナスのままでずっと5年間行ってしまうのか。もしくは、途中でこういうふうに行動していった方がその50%のマイナス分は達せられるというときには、その行動の中身そのものを見直していくのかというのは、知っておかないといけないと思います。

（社協：新井課長）

地域福祉活動計画に関しましては、あくまでも我々の目標というよりは、住民の方たちの行動目標になります。なので、例えば委員さんがおっしゃられたように、中間の時点で、まだ50点ぐらいであれば、そのあと、その50点のままでいいということではなく、まだ50点なので、みんなで100点に向かっていきましょうという働きかけを我々の方としては行っています。

その計画は、社会福祉協議会の独自の発展強化計画という別の計画がありますので、その中で、この地域福祉計画や地域福祉活動計画を側面的に応援していくよう修正をかけていこうと思います。

（事務局：春田課長）

先ほど取り組みの改善をしていかないのかというご質問があったかと思いますが、目標は変わりませんが、その目標に達していないということであれば、取り組みの改善という形で、各課に事業の実施だとか、取り組み方法を改善してもらうような働きかけはしていく形にはなると思います。

（吉野委員）

目標値を下げるとかいうことはしないで、目標値はあくまでも目標値のままということですね。ありがとうございます。

（福田副会長）

よろしいでしょうか。ほかにご意見ございますか。

（渡部委員）

数日前に聞いたのですが、八千代市に小学生中学生の登校拒否が600人いるということです。私は聞いてびっくりしました。どういうふうにしていくのか。この子どもたちが20年後どうするのだろうかと思います。それから、パブリックコメントのご意見に、「地域のサロンについて若者と交流したいとの意見がありますが若者がお年寄りの中に飛び込むことは考えにくいです。また、ひきこもりという言い方が失礼でこもりびとという言い方もあります。」と意見がありましたが、私から言えば、NHKで言っていたが秋田県の村で社協が頑張ってひきこもりをゼロにしたと。最終的に食堂みたいなのを作って、そば打ちか何かやって、ひきこもりの人は40代や50代の人もあるようだけど、そんなことも含めると、ひきこもりという言い方が失礼じゃなくて、逆に、はっきりしていいだろうと思います。

（中澤委員）

あんまり前向きな質問でなく申し訳ないですけども、アイコンの作成について、この慶應義塾大

学大学院がどうして選ばれたのかっていうのを知りたいです。

（社協：新井課長）

慶應義塾大学大学院のメディアデザイン研究科が、かれこれ5年ぐらい、八千代市社会福祉協議会とフィールドワークで色々な連携をさせていただいています。特に、コミュニティースペース、米本にあるほっこりというところを中心に、ほぼ毎日のように学生さんが来てフィールドワークをしながら、地域福祉を考えたり、高齢者とITを繋いだりしています。学生さんによって、研究課題は違いますが、そういった背景の中で、来年度から社会福祉協議会も、企業さんとも協定を結んでいくという話の中から、せっかく「わがまち元気プロジェクト」をやった中で、この生成AIを使って、アイコンがつかれるというご提案があった関係で今回は載せさせていただいたという背景にあります。

（中澤委員）

そうしますと、その慶應義塾大学の学生さんたちは福祉に関する研究をされているという感じなんですか。

（社協：新井課長）

あくまでも広い意味での福祉という、その幸せというものを、このメディアを使ってどう構築できるかとか、高齢者だけでなく障害など、いろんな分野の方たちを繋いでいくためにメディアをどう使えるかという研究をされているということです。

（中澤委員）

ちなみに、そのような研究発表というのを、我々は聞くことはできないですか。

（社協：新井課長）

学生の修士論文等は我々の方でも拝見をさせていただいているので、委員さんの方にも、希望される方にはご提供できるようにはしていきたいと思います。

（中澤委員）

あとすいません。もう1点関連してですが、この各支会に新しいマークがつけましたが、これは各支会が選んだものですか。

（社協：新井課長）

このアイコンにつきましては、先ほどご説明したように「わがまち元気プロジェクト」という21の地区での懇談会意見を全て書き出しまして、それを生成AIの中に入れたイメージとなっています。例えば、サロンをやっているとコーヒーというマークになったり、人との繋がりが強いと人のマークになったりということで、あくまでもこのアイコンに関してはそのAIが選んだという感じになります。

（中澤委員）

だからまた変わっていくとお話されたのですね。なるほどわかりました。

（福田副会長）

ありがとうございました。他にご意見ございますか。

皆様からいただいた意見を踏まえて、原案を修正し、最終的な原案の作成につきましては、私と山下会長、事務局に一任させていただく形でよろしいでしょうか。（異議なし）

それでは、事務局と調整しながらすすめていただきたいと思います。次に第2次八千代市地域福祉計画・地域福祉活動計画の概要版・やさしい版について事務局から報告をお願いします。

（事務局：鈴木）

それでは、計画書の市民向けの概要版についてご説明させていただきます。本日、お手元にカラー刷りでお配りしているものになります。

今回、市民向けに「概要版」と、表紙に子どものイラストなどが加わっている「やさしい版」の2種類を作成しています。まず概要版をご覧ください。1ページには第2次計画で少し深めていきたいと考えている「ふくし文化」という概念を記載し、地域福祉とはこういったものかの説明をしております。また、基本理念や計画の考え方について記載しています。2ページ目は本計画がどういったものであるか、計画の位置づけ、他の計画との関係性が記載されています。3ページから5ページまでは3つの基本目標に対してどのような施策を掲げているのか、また、第2次計画から定めた重点施策がわかるように記載しています。また、地域の取組として、支会の活動などの写真が添付しています。6ページでは、わがまち元気プロジェクトの様子を記載し、地域の方と一緒に課題などを共有しながら策定したものであることを示しました。最後の7ページには市民、地域団体や事業所等、社会福祉協議会、市がそれぞれで計画を推進していくために出来ることを記載しています。

次に、「やさしい版」は、当初、子どもたちの福祉教育に活用できるものを想定して、子ども版としていましたが、協議会の委員から子ども版でなくルビなど入れることなどで障害のある方にも伝えられるとの意見をいただきましたので、今回「やさしい版」として、イラストや写真などを多く入れてわかりやすいものにしました。1ページ、2ページには地域福祉について、社会福祉協議会について、住んでいる地域でどんなことができるかについて記載されています。また、みなさんができることを記入するスペースを設けました。3ページには地域福祉計画・地域福祉活動計画について記載し、市の取組みの写真を用いて記載されています。4ページから6ページは基本目標に沿った市や社会福祉協議会の取組みやわたしたちができることをイラストで掲載しています。7ページは実際に何が行動できるか例を用いて投げかけています。実際は、印刷する紙によって色の濃さやデザインも若干変わってきますが、おおむね最終版の概要版、やさしい版としてご確認いただければと思います。

また、概要版・やさしい版について山下会長にもご確認いただき手直ししていますが、本日は最終版として委員の皆さまにお示ししております。時間的に大きな修正は難しいこともあります。言葉の表現やご感想などをいただければと考えております。

なお、印刷部数は、計画書は400部の印刷を予定しており、計画策定協議会委員、情報公開室、各支所・連絡所、公民館、図書館、社会福祉協議会、医師会、歯科医師会、薬剤師会などに配布予定です。また、市民向けの概要版は2,000部印刷を予定しており、計画策定協議会委員、民生委員協議会、情報公開室、各支所・連絡所、公民館、図書館、社会福祉協議会に配布予定です。各委員で概要版の必要部数がありましたら、ご意見いただければ幸いです。やさしい版は1,000部の印刷を予定しております。やさしい版について槌田さん補足説明お願いいたします。

（社協：槌田）

やさしい版につきましては、小中学生向けアンケートに協力してくださった学校の方への配布を考えております。ただ部数には限りがありますので、どのようにしたら子どもたちのもとに届くのか、教育委員会と相談しながら配布を検討しているところです。

（福田副会長）

事務局からご説明ありがとうございました。概要版、やさしい版について各委員からご意見・ご感想をお願いします。

（中澤委員）

やさしい版に対してアンケートに答えてくれた小・中学校ってどこか教えていただけますか。

（社協：新井課長）

今資料を用意するので後程、回答させていただきます。

（犬塚委員）

やさしい版ですが、八千代市内小学生全員にあげることはできないでしょうか。1,000部だといきわたらないのでしょうか。せっかく作ったので、どのくらい料金がかかるかわかりませんが、できたら、みんなにあげて欲しいなと思いました。計画書本編は、読むにも時間がかかって苦労するぐらいページが多かったの、これなら皆さん、読むかなと考えました。これぐらいの感じだったら、八千代市の小学生だけでもいいので、あげられたらいいのになと思いました。

（福田副会長）

ありがとうございます。ご意見ということで、検討していただければと思います。

（保坂委員）

今の意見に関係していますが、社協さんは福祉教育をされていると思います。その時に配ったらどうかと思いました。計画書29ページの小中学生アンケートについて載っています。そこに、福祉のイメージについての複数回答のグラフが出ていますが「みんなが幸せになること」ということが出ています。小学生は41.8%、中学生を見ると体の不自由な人への支援っていう方が高くなっていますが、みんなが幸せになることっていうこの文言で、私は小学校の福祉教育に出席しています。お手伝いにいっていますが、社協の職員さんが「みんな福祉ってどういうイメージ持っている」って投げかけるときに「みんなが幸せになることが福祉なんだよ」ってよくおっしゃっているのをいつも聞いていて、子どもたちもそれをやっぱり耳にしているから、このアンケートでも上に出てきたのかなと思いました。確かに小学校5年生が多いですね。やっぱり子どもたちは、社協さんのそういった事業をちゃんと聞いているんだなあと思いました。ですので、この冊子が手元にいくともっといいです。ちょうど、皆さんができることを考えてみましょうということもあったりして。部数の関係があるのだったら、何かそういう福祉教育のときにうまく利用されたらどうかと思いました。

（福田副会長）

私から質問ですが、今期印刷した後で、増刷とかの予定はありますか。例えば、毎年何部とか、そういう予定はありますか。それとも1回印刷したら、それを4年とか5年とか使うイメージでしょうか。

（社協：新井課長）

委員さんのご意見をなるべく反映はしていきたいと思いますが、まだ予算が取りきれていないということもあります。何とか予算化して、先ほどの委員さんのご意見を参考になるべく多くのお子さんたちに届けられるよう考えていきたいと思います。

（福田副会長）

先ほど福祉教育のお話があったとおり、年に1回指定の学年全学年じゃないと思いますが、福祉教育をしているので、例えば、その小学校の該当年度の人数を把握していると思うので、その枚数を押さえて予算をとるとか、やはり継続して渡さないと、最初の年に1回渡しても終わりだったら多分どこかにいってほしいと思います。学んだりとか読んだりするときにリアルタイムに渡すのはすごく大切と思うので、今年度に限らず来年度以降もちょっと予算取りとかもきるのであれば進めていただけるといいのかなと思います。

（八巻委員）

学校の方がかなりデジタル化、ICT化が進んでいるのでこの資料をデジタル化して、デジタル教科書みたいな形で配布することってというのはどうでしょうか。デジタル化の予定とか、ホームページの掲載とか、SNSへの配信とかはどうなっていますか。今、小学生が市内1万人、中学生1万4千人ぐらいだと思いますので2,000部というとならかなり少ない。デジタルでの配布というところも、どうお考えかなというところです。

（福田副会長）

ありがとうございます。やさしい版についてはご覧いただくとわかりますが、記載しながら考えるような構成にもなっていて、デジタル版は私もいいなと思ったのですが、実際に読みながら書きながら考えると、紙の方が何か体に入ってくるみたいな感じをちょっと受けました。でも誰でも見られる意味ではデジタル版を作成すればコストも下がるのでしょうか。

（八巻委員）

今、デジタル教科書も結構書き込みができるようなものができているそうなので、その辺も研究していただいて書き込みができて、絵が動かせるとか、動画にリンクするとかというのも結構やっているところもあるようなので、その辺も研究いただければと思います。

（吉野委員）

小学校4年生、5年生が福祉教育の対象の学年だと思うんですけど、たぶんこれ見たときに意味がわからないと思います。八千代市地域福祉計画についてではなくて、さっきのアンケートにあったような子どもに突き刺さるようなキャッチコピーを表紙に入れてみたらどうですか。子どもって本を買ったり漫画を買ったりするときにキャッチコピーから入ったり帯から入ったりするから、「みんなが

幸せになるために」とかキャッチコピー的な、単純な1単語ぐらいの言葉を入れておくと、子どもたちはそこに引っかかります。そういう言葉を、大人が子どものために作りましたではなく、子どもが主体的に読めるような工夫があるとよいです。概要版も読むかもしれないけど、やさしい版を子どもを対象にするのであれば、キャッチコピーみたいなものを入れておく方が突き刺さる気がしました。今更レイアウトを変えられないというのものもあるかもしれませんが、その辺に流れてしまいそうな気がします。

福祉教育で一生懸命、各小学校やっているのは存じていますが、興味のある子に渡しても地域福祉計画とか活動計画は大人の用語なので子どもにも受けられるような言葉を入れた方が絶対にいいような気がします。大人が考えた子どもらしい絵なので、こんなこと言っちゃいけないかしんないけど子どもの目線ではなくそういうものを入れたほうがいいような気がしました。

大人が考えた子ども期のイラストみたいな感じがしたので、ちょっとそういう点を考えていただけるとありがたいかなというふうに思いました。

（事務局：鈴木）

そうしましたら、下の方に「認め合いともに生きるわがまち八千代市」が表紙に入っていますが、例えばこっちの文字を大きくして、地域福祉計画は難しい言葉なのでこれをもう少し小さくして逆転させるというのもありでしょうか。

（吉野委員）

そうですね。

（事務局：鈴木）

それでは計画名の方は、もう少し小さくしても可能だと思うので調整してみます。

（中村委員）

やさしい版と概要版の目標の色づかいが変わっていて、ちょっと気になるかなと思いました。1が緑、2がオレンジ、3が紫ですが、やさしい版は全部オレンジだから、あれっと思っちゃいました。もし、やさしい版を何か1色にするなら概要版のオレンジ以外で使われない色の方がいいのかなあとと思いました。あと、もう福祉計画に入っているから変えられないと思いますが、基本目標3が大人でも難しい気がしていて、やさしい版の言葉づかいがすごくいいなと個人的には思いました。私もそういうことかと気づいたので、もしも変えられるのだったらと思いました。

（渡部委員）

わからないので聞きますが、学校の授業の一環として先生がちゃんと説明して配るのですか。

（社協：新井課長）

そこに関しては今回初めてですので、先ほど担当から説明もあったとおり、このようなやさしい版ができましたので、学校の先生の方でも、いろいろな説明を含めて解説をお願いします。ということで、我々は別の資料で補足するような形でお配りすることもできる。学校の先生が単に配るだけでなく、そこにちゃんと先生も理解していただくような取り組みができると思います。

（渡部委員）

そうでないともったいないと思います。高齢者が子どもたちに小学校、保育園まで含めて、昔遊びを年間スケジュール組んで各地区で動いています。そういうことも含めてやっているのです、子どもたちが紙飛行機であったり、けん玉をやって喜んでいます。それに長寿会の高齢者が接している。だから、このつくった計画がどこまで下がってきて、皆さんにつながるのかなと思いました。先ほど言ったように登校拒否児が600人もいる中でどうするのでしょうか、作るのはいいのだが、親も関心持ってちゃんと伝わっていくのかと非常に心配しています。

（中澤委員）

今のお話ですと、学校の先生がこの福祉の話をするということですか。そうじゃなくて、社協が学校の方に出向いて行って福祉の教育をしてくださるのですか。どちらでしょうか。

（社協：新井課長）

私どもは、基本的に小中学校の約8割の学校からご依頼をいただいて、総合的な学習の時間で講座をさせていただいています。そのときは、その生徒さんたちに我々から直接、お話することが可能ですが、例えば我々のところに依頼が来ない学校もいくつかありますので、そういった学校には、そういった先生方のご協力をいただくことも考えられるかなと思っています。

（中澤委員）

ちょっと知識が不足して申し訳ないですけど、今の学校の先生は学生時代に、その福祉の教育っていうのは受けているのですか。

（社協：新井課長）

先生方にもよるとは思いますが、確かに、私どもが実際に小学校に伺うと、若い先生は体験をしたりそういう話を聞いたりすることもあります。やはり年配の方とかですと、初めて聞くっていうような方もいらっしゃいます。その辺は、教育長とも密に連携をとっているのです、その辺で広げていただければとは思っています。

（事務局：春田課長）

先ほどの中村委員からのご指摘で、やさしい版と概要版の目標のことについてですが、色を統一することは可能と思っています。3つ目の基本目標の表現については、ちょっと変えられないかなというふうに思っていますので、申し訳ありません。色の統一感だけは、対応できると考えています。

（社協：仲村）

先ほど中澤委員からのご質問の件で、地域福祉活動計画・地域福祉計画活動計画のアンケートをこちらに配布しましたかということですが、八千代市内の学校は5圏域に分かれているということで、各圏域1校ずつを抽出させていただきました。その上で小学校にしましては、村上小学校、八千代台東小学校、大和田西小学校、新木戸小学校、そして阿蘇米本学園前期の小学生です。そして中学校が、八千代中学校、睦中学校、勝田台中学校、東高津中学校、そして萱田中学校にアンケートのご協力をいただいております。こちらの学校に紙ベースでのやさしい版の配布を考えております。

（福田副会長）

ありがとうございます。他に何かご意見、ご質問などございますか。私から1点いいですか。

社協という表現と社会福祉協議会という表現が混在している。資料の中で社協っていうと私たちはもちろん社会福祉協議会とわかっていますが、ぱっと見た人がわかるのかなとちょっと気になりました。例えば、概要版の1ページの上から4行目「市と社協が共有し」とか、最後から2ページ目の右上、「社協支会とは」など、社協っていう言葉は日ごろ普通に使われている言葉ではあると思いますが、説明する上で表現が適切なのかどうかちょっと気になりました。その点いかがでしょうか。

（社協：新井課長）

確かに社協は、福祉の分野では知れ渡っているかもしれませんが、聞きなじみのない方もいらっしゃるかもしれませんので、例えば、一番初めの冒頭で八千代社会福祉協議会というところが出てきたところに括弧して社協っていうような、注意書きを載せさせていただければと思います。

（八巻委員）

やさしい版と概要版の表紙の上に令和7（2025）年度、令和11（2029）年度と入っていますが、何のことかわからないと思います。やさしい版だったら優しくして欲しいなと思います。

（福田副会長）

自分たちの計画年度とわかりますが、他の方はわからないということですね。いかがでしょうか。

（事務局：鈴木）

計画期間と追記させていただきます。

（中村委員）

社協の表現のことですけど、裏表紙の社会福祉協議会のところも（社協）と入れといていただけるといいかなとは思いました。今さらですが、概要版、やさしい版は明るい感じで表紙も全体的にはすごく馴染みやすい感じで、素敵だなと思いました。

（渡部委員）

私も感想です。老婆心かもしれないけど、親にも子どもにはもちろん、学校の先生にも伝わるように。それでさっき授業の一環で入れられるのですかと聞きましたが、せっかくいいものをつくっても伝わらなくてはしょうがないと思います。何回も言いますが600人の登校拒否があって、親に聞いたアンケートでは、子どもが学校に行かない理由がわからないと言います。その理由がはっきりしないことです。やさしい版は、お年寄りに席を譲りましょうとかいいことが書いてあります。これがぜひ伝わるように学校に行くとか、福祉のことわかってない先生も、経験してない先生も多いでしょうからよろしくお願いします。

（吉野委員）

自分のことだと思ってもらえるように読んでもらえるといいと思います。最近は、教師の教職課程の中に介護体験が必須になっているので、必ずどこかの福祉施設へ行くようになっていますけれど、

それ以前の方は介護体験をしてらっしゃらないので、障害者っていうものがよくわかってらっしゃらない方がいて、教師の更新制度がある時代は夏休みに集中的な講義があったそうですが、今はないので先生の中でも、福祉に対して造詣があるかないかというのはとても難しい問題です。それと、先生は本当に忙しく働き方改革もありますが、余裕がないです。その中で、八千代市には幸いなことに八千代市の教育と福祉の連携協議会がモデル事業の時代に10年前からあって、一般財源化されたのちも市がそれを負担して教育委員会が主催で、教育と福祉っていうことで福祉の分野の人がたくさん出てきてくださっている。

主体は教師なので、そういう場で説明するとか、せっかくの連携協議会をもっと有効に使っていたいて、そういう場で説明をしていただいたりしたらいいような気がします。

1年に2回ぐらい開催されていますので、そういうところでも、ちょっとアプローチされると、もっと周知ができやすいのではないかと思います。そういう場を利用していくこともこの地域福祉計画、活動計画の中の一環としてとらえていった方がいいような気がしました。

それからさっきから心配してくださっている子どもの不登校ですけど、コロナ前とコロナ後で4年間の間に4倍になっています。見事に4倍です。八千代市も困っていらっしゃる。福祉に受け皿ができたと言いますが、本当にこれからそこもみんなで一生懸命に考えていかないといけない問題だと思っています。この活動計画の中の議論になるのかならないのかわかりませんが。

八千代市の小学生の数はそんなに増えていませんが、不登校の子が4倍です。さっきおっしゃっていたのと同じで、お母さんたちはなんで行かないのかわからず、学校もどうして来ないのかわからない。教師の立場から言うと、どうしてこないのかわからない。

障害福祉のサービスの中で私の事業所は放課後デイサービスというのをやっていますが、そこに不登校の子を受けようというところで新たな類型ができた。けれど、たくさんお金がもらえるので悪用しようとするれば幾らでもできる問題ですけど、そういうふうにはされたくはありません。学校へ行く子を増やして欲しいし、知恵でお年寄りも増やして欲しいと思います。概要版をどう活用していくかっていうのは教育と福祉の連携協議会もありますし、配布先もある。これどうやったら読むって子どもに聞いてみてもいいかなと思いました。どんな表紙だったらページ開けてみるとか聞いて、ここにガンダムがあればいいとか、恐竜の絵があればいいとか言うかもしれませんけれど、そういう意見も聞きながら、子どもに読んでもらうのが目的であるのならば、大人が作った子どもらしい絵ではなく、子どもにも聞きながらやってもらえるといいかなと思いました。大人が作った子ども向きのものだから、1回は読むかもしれませんが、2回目3回目、やっぱり中身開けてみようとは思わないと思ったので、変な言い方ですがポケモンが書いてあってもいいです。そういう意見も取り入れてやっていただけるといいなっていうふうに思いました。障害者自立支援協議会の中でも子ども分科会なので、子ども視点でしか話せませんがありがとうございます。

（福田副会長）

ありがとうございました。では、この概要版、やさしい版についても会長・副会長に一任させていただいてもよろしいでしょうか。（異議なし）

それでは、本日を持ちまして2年間にわたる計画策定がひととおり終了しました。この計画では地域福祉を目指す姿を実現するために重要な計画であり、みなさまの知見が随所に反映されたものとなっています。今後はこの計画を確実に実行に移し、具体的な成果に繋げ、この協議会で評価をしていきたいと考えております。

次に事務局から来年度以降の計画の推進等について、委員委嘱について事務局より報告をお願いします。

3 報告

（事務局：鈴木）

まず、この協議会後の動きになりますが、会長、副会長に一任ということでご了解をいただいておりますので、本日いただいた意見を参考に、会長、副会長と事務局で最終の校正をさせていただき、3月上旬には原案を完成させて印刷等の工程に移らせていただきます。完成は3月末を予定しており、完成次第、委員の皆様にご送らせていただきます。

来年度の本計画の取組といたしましては、年1回の庁内の取組状況調査を実施しますが、第2次計画では重点項目を設けていますので、これらの施策については以前お伝えしたように部会であったり、他の協議会を活用するなどして推進していければと考えております。また、地区別計画に関する部分として、来年度以降は毎年、わがまち元気プロジェクトを全21地域で開催する予定です。地域ごとに時期をずらしながら1年間をかけてやっていき、地区別計画での変化をおっていただけるようにしたいと考えております。来年度の協議会は年1回の開催予定であり2月頃を予定しています。委員の皆様の任期は令和7年7月31日までとなりますので、改めて所属団体に推薦依頼をさせていただく予定です。ここで皆様に2点ほどご確認がございます。1点目として、事務局としては、協議会の構成団体について今と変更なしでよいかと考えておりますが、よろしいでしょうか。

また、2点目として本協議会の委員定数は15名となっており、現在13名ですが予算上は1名増やすことができそうな状況です。以前、山下会長からは障害等の当事者の方にも参加してもらってはどうかと提案頂いており、事務局としても良いかなと考えております。皆さんがよろしければ、事務局の方で調整させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。ご意見ありましたらお願いします。

（福田副会長）

今の提案についてご意見ございますでしょうか。障害等の当事者の方に参加してもらったかどうかということで、その障害の度合いとか、イメージ的にはどういう方で、例えば団体所属されている障害の方か、それとも一市民の障害の方なのか。いろんなケースあると思います。

（事務局：鈴木）

シンポジウムに参加された方とか「わがまち元気プロジェクト」などに参加していただいた方とかを考えています。

（福田副会長）

ある程度、障害の状況や障害を持っている方の生活状況を把握して、ご自身の言葉で発言できる方という方ですかね。いかがでしょうか。特に異議がなければ、この形で進めていきたいと思えます。

（異議なし）

異議なしということで事務局よろしくをお願いします。

（事務局：鈴木）

それでは、事務局で調整をすすめさせていただきます。それでは、最後に福祉総合相談課長の春

田、及び八千代市社会福祉協議会の新井課長より一言ご挨拶申し上げます。

4 閉会

（事務局：春田課長）

福祉総合相談課長の春田です。本日の協議会をもちまして、委員の皆さまにご尽力いただきました第2次計画の策定に係る工程は終了となります。実際、第1次計画ではコロナ禍もあり、なかなか思ったように進まなかった部分があったり、手探りの中でやっていて手をつけられなかったところがあったと伺っています。第2次計画では、それらを踏まえて委員の皆さんからたくさんのご意見を頂戴し、第1次計画以上によりよい計画が策定できたのではないかと考えております。

また、この計画は以前、山下先生もおっしゃっていましたが、作ることよりも、これからどのように進めていくかが重要になってきます。この5年の間でも社会情勢等は変化していくものと考えますので適宜評価をしながら進めていければと考えております。委員の皆さまにおかれましては約3年間にわたり、ご協議をいただきまして誠にありがとうございました。今後とも八千代市の地域福祉の推進にご理解・ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

（事務局：社協新井課長）

委員の皆様には本当に3年間、いろんなご意見をいただきましてありがとうございました。先ほどのご意見の中にもいろいろ出てきていますけれども、今回はおかげさまで、1次では実施ができなかった、「わがまち元気プロジェクト」の対面での実施や、委員の皆様の声で、小中学生の声をこの計画の中に反映させていくということが実現できたのは、本当に皆様のおかげと考えております。アンケート調査ですとか、いろいろなヒアリングの中で、関係機関ボランティアの方にも、ご協力をいただきましたこと、感謝申し上げたいと考えております。また、何より、今回、計画策定に当たって、株式会社まち研様には、我々が土日夜間「わがまち元気プロジェクト」をやるときにも、わざわざ足を運んでいただきまして、サポートをしていただいたことをここで感謝を申し上げたいと考えております。今後、この計画を、学校だけではなくて、地域や企業やいろいろな団体に、我々としても広げて推進していきたいと思っております。ぜひとも今日、参加されている委員の皆様にもそれぞれの所属のところで、この計画を広げていただけますようご協力をいただけるとありがたいです。3年間ありがとうございました。

（福田副会長）

3年間皆様お疲れ様でした。今日は山下会長がご不在ということで、私が司会進行させていただきました。うまく進められたかどうかわかりませんが、これで協議会を終了することができてほっとしています。

それでは以上をもちまして第4回八千代市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定推進協議会を閉会いたします。どうもありがとうございました。